

はじめに

本調査は、当金庫のお取引先のご協力により昭和50年7月から実施しているものです。四半期ごとに調査を行い、D.I.を中心として分析を行っています。

なお、当金庫では6種類の一般業種のほか、地域金融機関として地場産業に重点を置いた調査を行い、次の8業種を選定しております。

- ① 縫製業
- ② 電子部品・半導体製造業
- ③ 漆器業
- ④ 木材業
- ⑤ 建具業
- ⑥ 織布業
- ⑦ 繊維・雑品業
- ⑧ 観光業

今回の調査は、令和3年4月～6月期の業況実績と、令和3年7月～9月期の見通しについて、管内678先の事業所を対象に実施いたしました。

些かなりとも経営のお役に立てていただければ幸いです。

※D.I. (Diffusion Index) 拡張指数

不変部分を除いて増加（上昇）したとする企業と、減少（下降）したとする企業の全体に占める構成比のどちらの力が強いかを比べて、時系列的に景気のベクトルの傾向を見る方法です。

**** 目次 ****

1. 概況	1
2. 地区内の業況D.I.推移	2
3. 一般業種の業況	
(1) 製造業	3
(2) 卸売業	4
(3) 小売業	5
(4) サービス業	6
(5) 建設業	7
(6) 不動産業	8
4. 地場産業の業況	
(1) 能登地区の縫製業	9
(2) 能登地区の電子部品 ・半導体製造業	10
(3) 能登地区の漆器業	11
(4) 能登地区の木材業	12
(5) 能登地区の建具業	13
(6) 能登地区の織布業	14
(7) 能登地区の繊維・雑品業	15
(8) 能登地区の観光業	16
5. 経済指標	17～18
6. 特別調査	
中小企業の事業継続について	19

(注) 令和3年4月～6月を今期、令和3年1月～3月を前期、令和3年7月～9月を来期という、以下同じ。

調査対象企業の業種別先数および有効回答数

	依頼先	有効回答数	回答率 (%)	構成比 (%)
製 造 業	203	187	92.1	30.2
卸 売 業	29	28	96.5	4.5
小 売 業	200	178	89.0	28.7
サービス業	120	114	95.0	18.4
建 設 業	97	88	90.7	14.2
不 動 産 業	29	25	86.2	4.0
合 計	678	620	91.5	100.0

◆◆◆ 概 況 ◆◆◆

《 2021 年 4 月～6 月 》

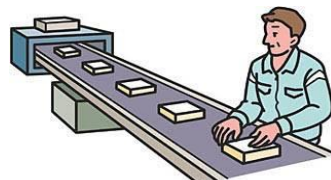
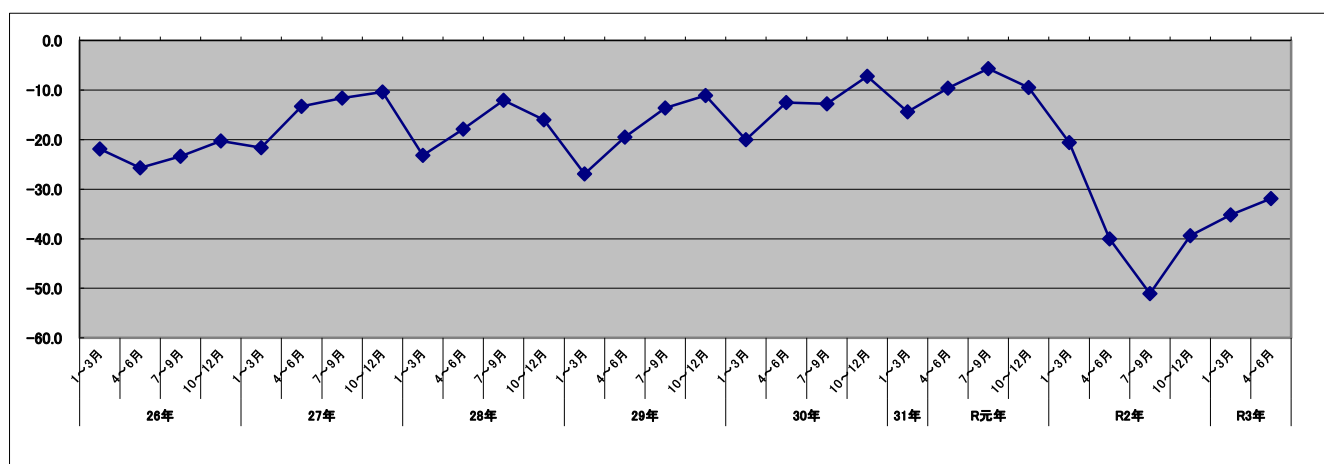
令和 3 年 3 月より、新型コロナウイルスワクチンの接種がスタートし、全国各自治体主導で接種が行われている。石川県の新型コロナウイルス新規感染者の推移は、4 月初頭から月末にかけては 10 名前後から 30 名前後へと徐々に増加し、その後も増加を続けたが、5 月 25 日の 101 名をピークに減少に転じ、6 月 25 日から 31 日にかけては感染者数が 1 日 1 名程度となった。新型コロナの第四波は沈静化したといえよう。

こうした中、当金庫営業地区の今期（令和 3 年 4 月～6 月）業況 D.I. は、△31.9（前期△35.2）と前期比 3.3 ポイントの改善を示した。地区内全般では、製造業、卸売業、小売業、不動産業は改善で、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の営業時間短縮の影響を受けたサービス業、建設業に於いては、アメリカで発生した住宅建築需要で建築用木材の供給が需要に追いつかないことにより輸入材の価格高騰の影響を受けた住宅建設関係は悪化した。地場産業では、自動車の減産や生産調整を受けた電子部品・半導体製造業の売上は下がったが、価格が高騰したことにより業況が改善。ステイホーム下で家庭用の手芸用品の売上が伸びた繊維業は改善し、国内観光客の動きが徐々に戻ったことで観光業も業況改善した。漆器業・木材業は横這いで現状維持。医療用マスクやガウンの需要の波が落ち着いたことで縫製業は悪化、コロナ第四波の影響で需要が伸び悩んだ建具業も悪化、繊維・雑品業は大手に押される形で業況悪化の結果となった。今期コロナ第四波が到来したが、度重なる時短要請に応えた事業者のお陰で沈静化に向かっており、引き続き感染の抑え込みと経済活動の両立が求められる。北陸経済の現状としては、個人消費は一部に弱い動きが見られるが概ね持ち直し、設備投資も緩やかに持ち直している。住宅投資は下げ止まりであり、雇用は緩やかに持ち直している。総合的に、厳しい状況にあるものの持ち直しているといえる。

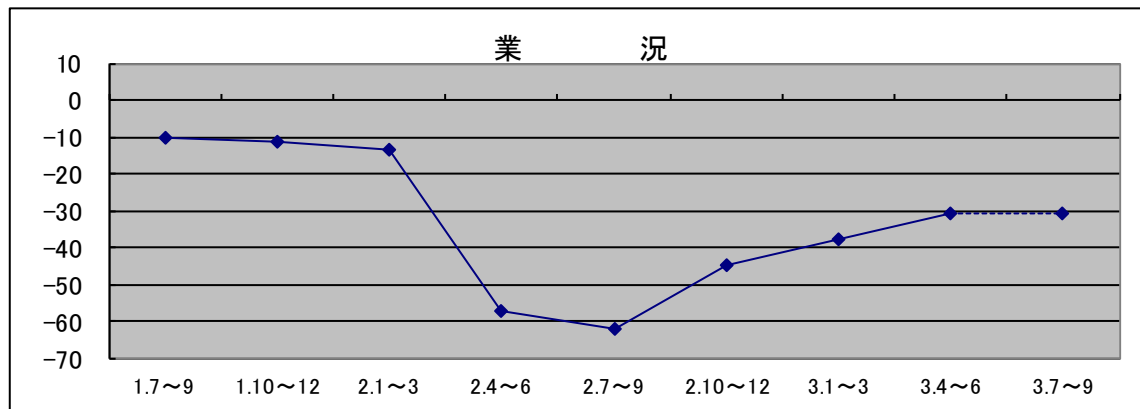
消費者は、飲食店の時短営業や酒類の提供時間短縮等により自由に飲食できない、また実質的に県外へ旅行に行くことも憚られる等といった現状にストレスが溜まり、破裂寸前であると思われる。今のところ北陸は爆発的にコロナ感染者が増える地域ではないが、夏休みとお盆の帰省の時期を迎えると首都圏や主要都市から人の往来が増え、新型コロナウイルス第五波の発生が強く懸念される。仮にそうなった場合、今までとは比較にならない感染爆発を起こす可能性がある。それを防ぐためには、今夏は帰省を控え、越境をしないよう心掛けて行動し、耐え忍ぶしか方法はない。感染力が強く、ワクチンの効果が減少するとされているデルタ株の感染が拡大しているが、それに対しても感染しないためにできることは従来と同じであり、密集・密接・密閉の 3 密を避けること、適切なマスクの着用や手洗いの徹底が有効である。一人一人の感染予防と意識の継続が国の浮沈に直結する。

地区内の業況D. I. 推移

年	期間	業況D. I.	年	期間	業況D. I.
H26年	1～3月	△ 21.9	H30年	1～3月	△ 20.0
	4～6月	△ 25.7		4～6月	△ 12.5
	7～9月	△ 23.4		7～9月	△ 12.8
	10～12月	△ 20.3		10～12月	△ 7.2
H27年	1～3月	△ 21.6	H31年	1～3月	△ 14.4
	4～6月	△ 13.3		4～6月	△ 9.6
	7～9月	△ 11.6		7～9月	△ 5.7
	10～12月	△ 10.4		10～12月	△ 9.5
H28年	1～3月	△ 23.2	R2年	1～3月	△ 20.6
	4～6月	△ 17.9		4～6月	△ 40.0
	7～9月	△ 12.1		7～9月	△ 51.1
	10～12月	△ 16.0		10～12月	△ 39.4
H29年	1～3月	△ 26.9	R3年	1～3月	△ 35.2
	4～6月	△ 19.5		4～6月	△ 31.9
	7～9月	△ 13.6		7～9月	
	10～12月	△ 11.1		10～12月	



製造業



【概 況】

今期（R 3.4月～6月）の業況D.I.は、△31.0（前期△37.7）と回復基調を保った。各項目については、売上・収益・設備が改善し、資金繰り・人手がやや悪化した。

業種別では、電子部品・半導体製造業、織布業、観光業が改善し、漆器業・木材業は横這い、縫製業、建具業、雑品業は悪化した。全業種でコロナ禍以前と比べて受注は低調なままで、回復基調とはいえども、飽くまでコロナ禍においてのものであり、以前の水準には遠く及ばない。

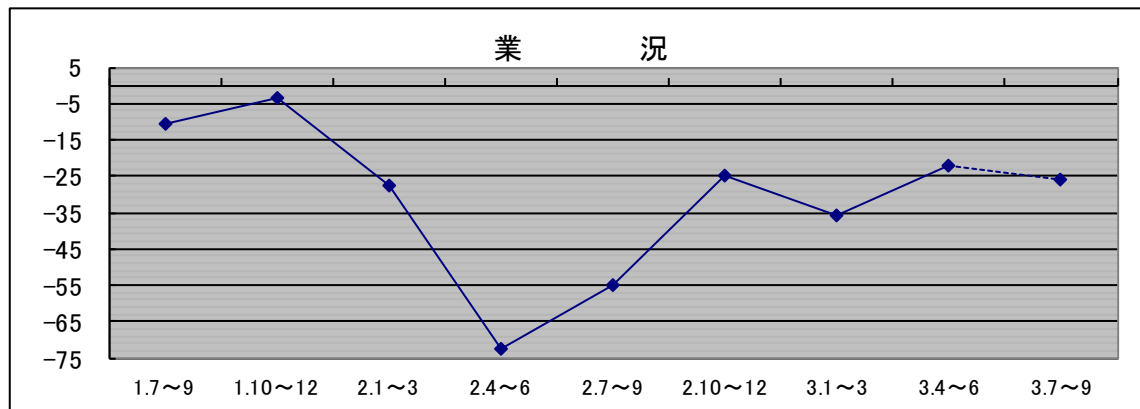
来期（R 3.7月～9月）業況D.I.は、△31.0と横這い、他項目についても概ねやや改善か横這いを予想している。未だ長いトンネルを抜けられる様子が見えていない。

《業績判断D.I.の推移》

	平成31年（令和1年）		令和2年				令和3年		見通し
	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月
業 況	△10.4	△11.3	△13.7	△57.4	△62.1	△44.8	△37.7	△31.0	△31.0
売 上	△5.2	△3.6	△15.8	△61.6	△40.5	△18.8	△38.2	△29.4	△23.0
収 益	△7.8	△8.8	△16.3	△59.5	△38.9	△20.8	△38.7	△28.9	△26.2
資金繰り	△9.8	△11.3	△8.4	△37.4	△19.5	△14.6	△13.6	△15.5	△11.2
人 手	△11.9	△8.2	△6.8	△2.1	1.6	△6.8	△0.5	△3.2	△2.1
設 備	△6.2	△5.2	△3.7	△5.3	△4.7	△2.1	△3.7	1.1	0.5

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	22.7%	提携先を見つける	34.8%
輸入製品との競争の激化	16.3%	販路を広げる	20.2%
人件費の増加	12.6%	経費を節減する	19.4%

卸売業



【概 況】

今期（R 3.4 月～6 月）業況D.I.は、△22.2と前期に比べ改善を示した。建築材がやや好調で、海産物、青果物、雑貨、贈答品等は売上・収益が横這い。衣料品は個人消費を抑える傾向により厳しい状況が続いている。業界全体では全ての項目で改善しており、資金繰りに関しては大幅に改善した。

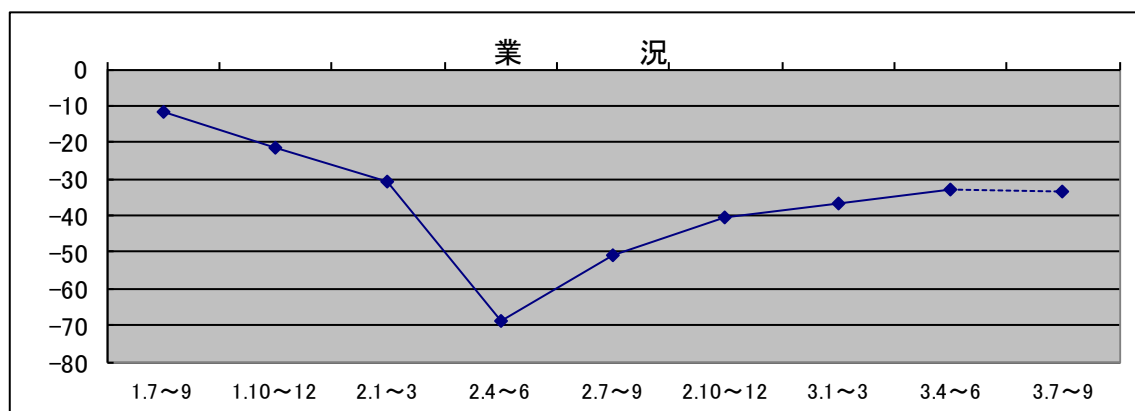
来期（R 3.7 月～9 月）業況D.I.は、△25.9とやや悪化を予想。売上・在庫は横這いで収益はやや悪化するが、資金繰りはやや改善し、仕入価格は落ち着くとみられる。

《業績判断D.I.の推移》

	平成31年（令和1年）		令和2年				令和3年		見通し
	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月
業 況	△10.7	△3.4	△27.6	△72.4	△55.2	△25.0	△35.7	△22.2	△25.9
売 上	△21.4	△3.4	△27.6	△65.5	△51.7	△17.9	△53.6	△25.9	△25.9
収 益	△17.9	0.0	△27.6	△65.5	△48.3	△14.3	△32.1	△18.5	△22.2
資金繰り	△14.3	△6.9	△6.9	△51.7	△24.1	△21.4	△100.0	△22.2	△18.5
仕入価格	0.0	3.4	6.9	0.0	△3.4	△21.4	△14.3	11.1	0.0
在 庫	3.6	3.4	0.0	△3.4	△6.9	△10.7	△21.4	△3.7	△3.7

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	17.5%	提携先を見つける	30.8%
同業者間の競争の激化	17.5%	販路を広げる	23.1%
合理化の不足	14.0%	経費を削減する	16.9%

小売業



【概 況】

今期（R 3.4月～6月）の業況D.I.は、△33.1（前期△36.7）と横這いに近い改善を示した。過ごしやすい時期になり、多少人の動きが戻ってきたことで引き続き業況は改善しているとの回答が多かったが、その中でガソリン等販売は原油価格の高騰による価格の値上がりと外出控えによる影響で売上・収益ともに悪化しているとの回答が多かった。

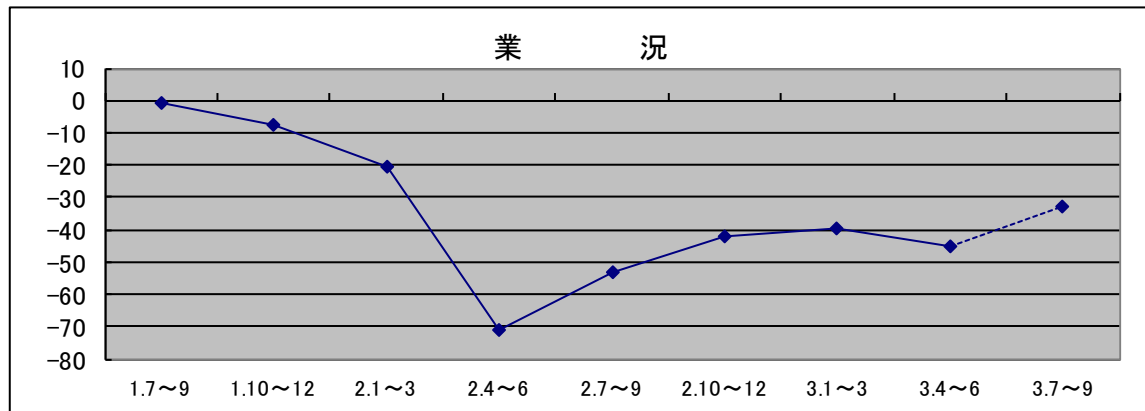
来期（R 3.7月～9月）業況D.I.については△33.7と横這いを予想。新型コロナウイルスの第四波が収束の兆しを見せているが、第五波発生の懸念もあり、楽観視できない状況が続く。

《業績判断D.I.の推移》

	平成31年（令和1年）		令和2年				令和3年		見通し
	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月
業 況	△11.6	△21.5	△30.5	△69.1	△51.1	△40.8	△36.7	△33.1	△33.7
売 上	△2.1	△16.9	△27.8	△63.9	△25.5	△30.4	△36.2	△30.9	△21.3
収 益	△2.6	△16.9	△27.3	△63.9	△23.4	△29.9	△2.1	△29.8	△20.8
資金繰り	△11.1	△7.7	△14.4	△25.1	△12.0	△8.7	0.0	△12.9	△10.7
販売価格	0.0	11.8	△4.3	△9.9	△0.5	△12.5	3.2	△2.2	△3.9
在 庫	5.8	2.6	4.3	3.7	1.6	△4.3	△11.2	0.0	△2.8

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	17.0%	仕入先を開拓・選別する	28.2%
地価の高騰	16.8%	経費を削減する	23.5%
商圈人口の減少	14.5%	宣伝・広告を強化する	11.6%

サービス業



【概 況】

今期（R 3.4月～6月）業況D.I.は、気候が温暖になり人出が増える時期であるが、コロナによる緊急事態宣言や、まん延防止等重点措置の営業時間短縮などにより、△45.1（前期△39.8）と悪化した。外出自粛等による影響で美容室や宿泊関連施設は影響を受けており、特に飲食業は度重なる時短要請等による売上・収益の減少に歯止めがかからない。

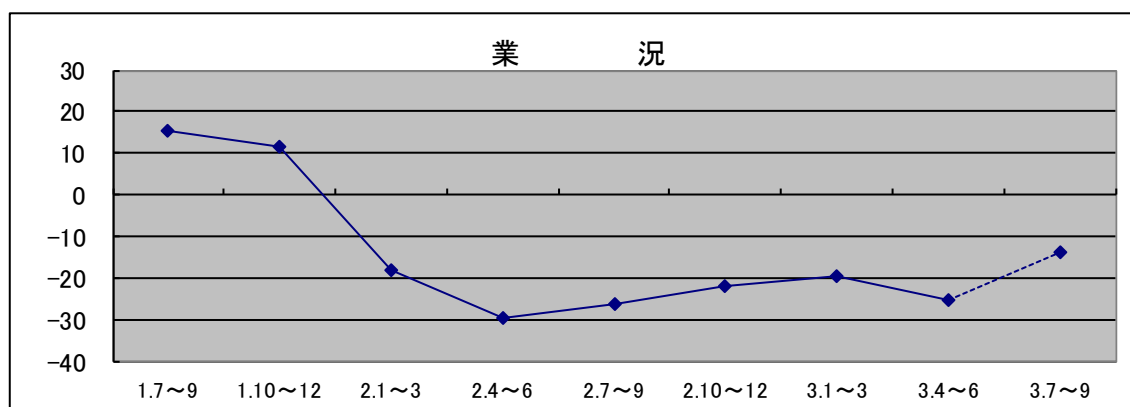
各種イベント等も引き続き感染対策を徹底して、感染拡大等の様子を見ながら開催するものが徐々に増えてきたが、中止・自粛となった祭りや行事や催事もある。新型コロナウイルス第五波発生の恐れもあるが、夏のシーズンである来期（R 3.7月～9月）の業況D.I.は△32.7と改善を予想している。

《業績判断D.I.の推移》

	平成31年（令和1年）		令和2年				令和3年		見通し
	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月
業 況	△1.0	△7.8	△20.5	△71.2	△53.4	△42.1	△39.8	△45.1	△32.7
売 上	△2.0	△9.5	△23.9	△70.3	△35.3	△32.5	△31.9	△46.0	△17.7
収 益	△3.0	△11.2	△23.9	△68.5	△34.5	△31.6	△3.5	△41.6	△17.7
資金繰り	△6.9	△10.3	△16.2	△39.6	△20.7	△17.5	0.0	△14.2	△16.8
料金価格	2.0	5.2	1.7	△6.3	△1.7	0.0	△0.9	△3.5	△1.8
設 備	△5.9	△5.2	△3.4	△1.8	△1.7	△1.8	0.0	△1.8	△2.7

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	22.9%	仕入先を開拓・選別する	31.3%
利幅の縮小	20.5%	経費を節減する	18.5%
同業者間の競争の激化	12.8%	販路を広げる	15.3%

建設業



【概 況】

今期（R 3.4月～6月）の業況D.I.は、△25.3（前期△19.8）と悪化を示した。民間工事、一般住宅建設はやや動きがあるも、「ウッドショック」と呼ばれるアメリカの住宅建設需要の増加に端を発した輸入材価格の高騰により、改善の兆しを見せていた新築戸建住宅販売が足止めされている状況である。新築住宅に使用される材料の七割近くを輸入材が占めることが理由とされ、海外依存度の高いサプライチェーンの脆弱性が浮き彫りになった。

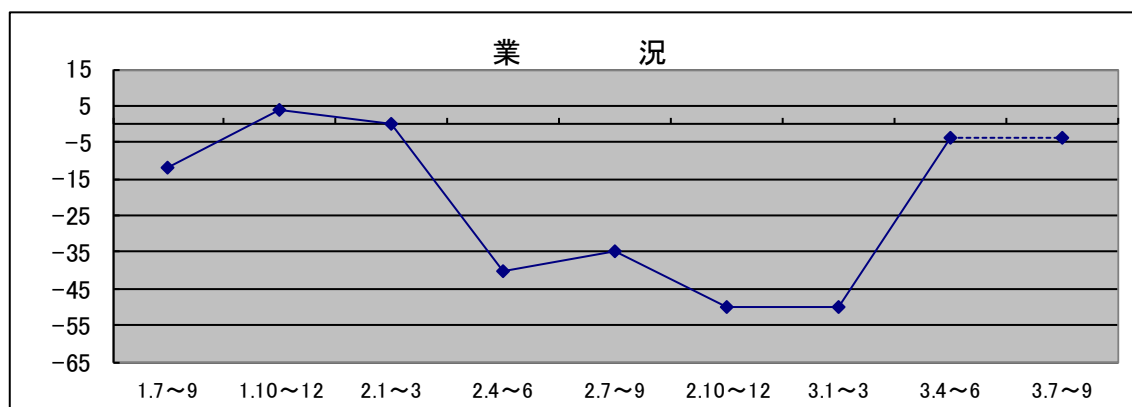
来期（R 3.7月～9月）の業況D.I.は、△13.8と改善を予想しているが、アメリカや中国の新築住宅需要が治まり、国内の木材流通量と材料価格が適正に戻り、業況改善が軌道に乗るまで注視が必要である。

《業績判断D.I.の推移》

	平成31年（令和1年）		令和2年				令和3年		見通し
	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月
業 況	15.4	11.7	△18.2	△29.9	△26.5	△22.1	△19.8	△25.3	△13.8
売 上	15.4	13.8	△20.5	△46.0	△15.7	△16.3	△22.1	△19.5	△12.6
収 益	9.9	10.6	△11.4	△43.7	△10.8	△10.5	△12.8	△13.8	△14.9
資金繰り	△2.2	2.1	△13.6	△24.1	△6.0	△10.5	△7.0	△10.3	△4.6
請負価格	1.1	11.7	△4.5	△19.5	△3.6	△9.3	△20.9	△12.6	△6.9
人 手	△22.0	△25.5	△12.5	△11.5	△7.2	△3.5	1.2	△6.9	△8.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	14.1%	技術力を高める	25.3%
人件費以外の経費の増加	14.1%	経費を節減する	18.3%
同業者間の競争の激化	11.3%	販路を広げる	11.8%

不動産業



【概 況】

今期（R 3.4月～6月）の業況D.I.は、△4.0（前期△50.0）となり、大幅に改善した。前期の人の移動による業況改善が時間差で実数に表れたことによる。売上・収益・資金繰りは改善されたが、販売価格は横這いで在庫は悪化した。全体的に動きは鈍く、各種イベントや催事も感染対策を十分にとって開催するものがある一方、中止や延期となったものも一定数あり、状況は芳しくない。

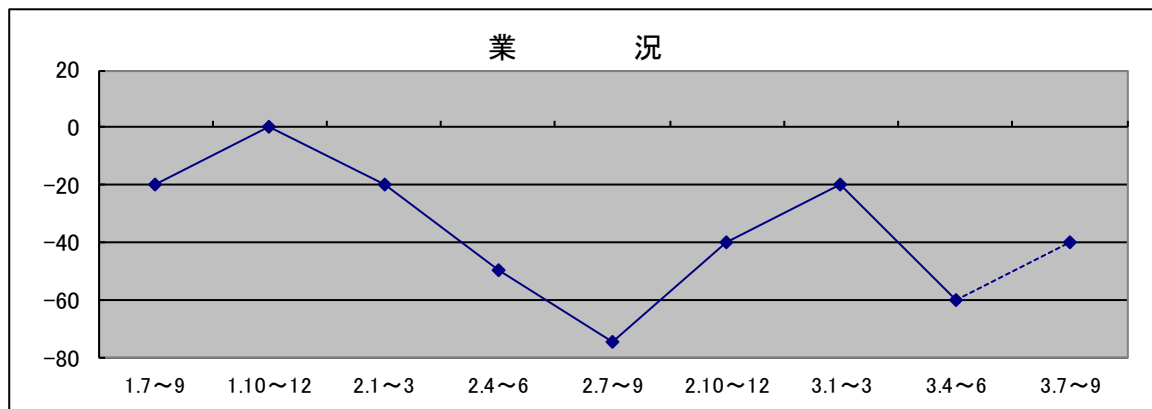
来期（R 3.7月～9月）業況D.I.は、△4.0と横這いを予想し、他すべての項目で改善を予想している。

《業績判断D.I.の推移》

	平成31年（令和1年）		令和2年				令和3年		見通し
	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月
業 況	△12.2	3.7	0.0	△40.0	△34.6	△50.0	△50.0	△4.0	△4.0
売 上	△4.9	3.7	3.8	△36.0	△34.6	△34.6	△34.6	△4.0	0.0
収 益	△7.3	3.7	3.8	△36.0	△34.6	△34.6	△34.6	△8.0	0.0
資金繰り	△7.3	3.7	△7.7	△24.0	△7.7	△19.2	△19.2	△12.0	△8.0
販売価格	9.8	11.1	3.8	△4.0	△19.2	△7.7	△7.7	△8.0	0.0
在 庫	2.4	△3.7	0.0	△8.0	△3.8	△3.8	△3.8	△16.0	△12.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
同業者間の競争の激化	33.3%	経費を節減する	13.8%
大手企業との競争の激化	25.0%	情報力を強化する	12.1%
売上の停滞・減少	16.7%	宣伝・広告を強化する	10.3%

能登地区の縫製業



【概 況】

今期（R 3.4月～6月）の業況D.I.は、前期で悪化（△40.0）を予想していたが、結果は△60.0と予想以上の悪化を示した。コロナウイルスの第四波が到来したことと、医療用製品の需要が一旦落ち着いたことが原因である。

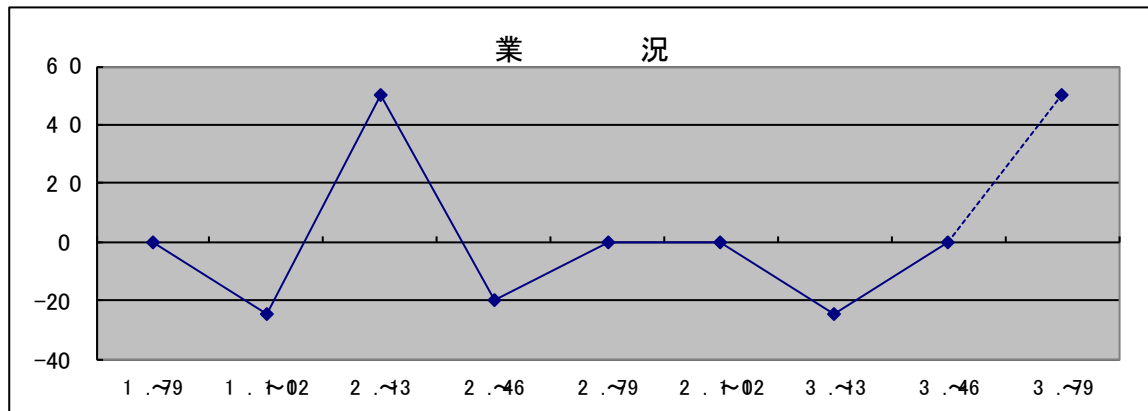
来期（R 3.7月～9月）はコロナウイルスの第四波の収束が見込まれることから、今期に比べ改善を予想しているも、ここのところ業況の浮き沈みが激しく、先行き不透明な状況が続く。

《業績判断D.I.の推移》

	平成31年（令和1年）		令和2年				令和3年		見通し
	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月
業 況	△20.0	0.0	△20.0	△50.0	△75.0	△40.0	△20.0	△60.0	△40.0
売 上	△40.0	20.0	△20.0	△75.0	△25.0	20.0	0.0	△60.0	0.0
収 益	△40.0	0.0	△20.0	△75.0	△25.0	0.0	△20.0	△60.0	0.0
資金繰り	0.0	0.0	0.0	△25.0	△25.0	0.0	0.0	△20.0	0.0
人 手	△20.0	0.0	△20.0	0.0	△25.0	0.0	△40.0	20.0	0.0
設 備	0.0	0.0	△20.0	△25.0	0.0	0.0	△20.0	0.0	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	33.3%	販路を広げる	25.0%
輸入製品との競争の激化	25.0%	提携先を見つける	25.0%
同業者間の競争の激化	16.7%	経費を節減する	16.7%

能登地区の電子部品・半導体製造業



【概 況】

今期（R 3.4月～6月）業況D.I.は、0.0と前期より改善。電子端末の製造や通信基地局の設置等で世界的な半導体需要が高まり、需給の逼迫から自動車の生産調整・減産体制が続く、自動車関連のカーナビ等半導体搭載部品やハーネス等の部品受注が減少している。需要は高まっているが供給が追いついていない状況である。今期の売上が悪化を示したのに対し、収益が改善したのは価格の高騰によるものである。

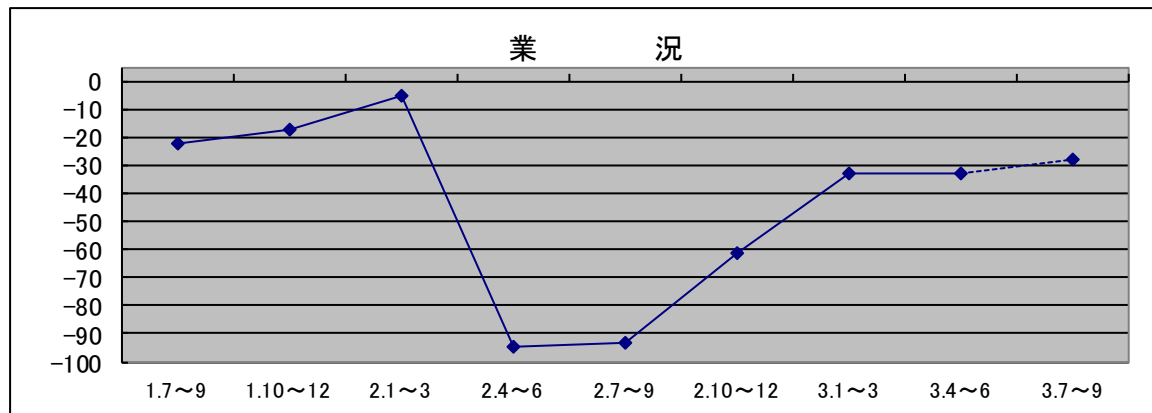
来期（R 3.7月～9月）、業況D.I.は更に改善する見込みであり、売上もマイナスより転じて大幅に改善し、収益・資金繰り・人手・設備は横這いになる見通し。

《業績判断D.I.の推移》

	平成31年（令和1年）		令和2年				令和3年		見通し
	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	
業 況	0.0	△25.0	50.0	△20.0	0.0	0.0	△25.0	0.0	50.0
売 上	△100.0	25.0	50.0	△20.0	0.0	40.0	△25.0	△50.0	50.0
収 益	△100.0	0.0	50.0	△40.0	0.0	40.0	△25.0	50.0	50.0
資金繰り	△50.0	△25.0	0.0	△40.0	△33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
人 手	0.0	25.0	△50.0	△20.0	0.0	△20.0	0.0	0.0	0.0
設 備	0.0	△25.0	0.0	0.0	△33.3	0.0	0.0	0.0	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	25.0%	経費を節減する	33.3%
輸入製品との競争激化	25.0%	情報力を強化する	33.3%
合理化の不足	25.0%	提携先を見つける	33.3%

能登地区の漆器業



【概 況】

今期業況D.I.は、△33.3と横這いであった。緊急事態宣言・まん延防止等重点措置による影響と、海外観光客の入国制限が続いていることから状況は芳しくなく、売上・収益は前期比較で悪化しており、依然業況は厳しい。

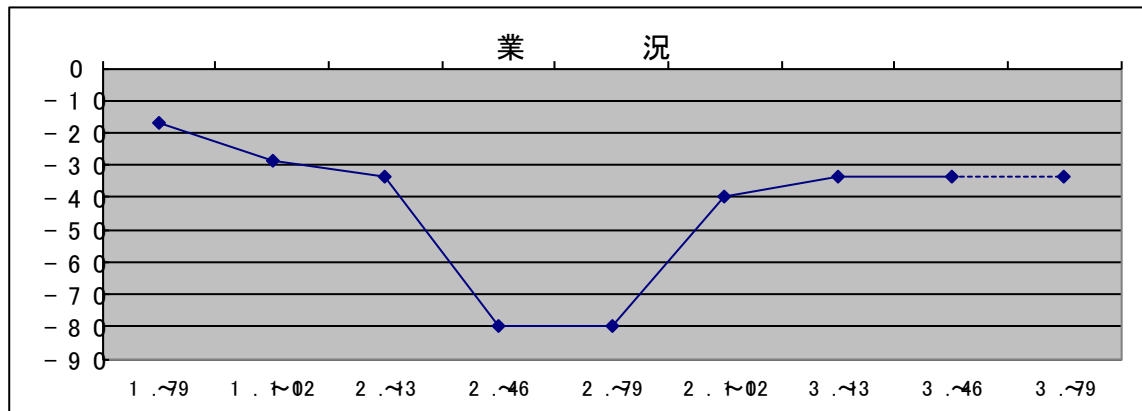
来期（R3.7月～9月）はコロナウイルス感染症の影響が続くとみられる。入込客・宿泊客・朝市客が4月より改善してきていることから、業況D.I.をはじめ、人手以外の項目で改善もしくは現状維持を予想しているが、催事等による営業も難しい状況が続いており、当面売上低迷が続く見込み。

《業績判断D.I.の推移》

	平成31年(令和1年)		令和2年				令和3年		見通し
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月
業 況	△22.2	△17.6	△5.6	△94.4	△93.3	△61.1	△33.3	△33.3	△27.8
売 上	0.0	△5.6	△5.6	△88.9	△46.7	△33.3	△33.3	△44.4	△22.2
収 益	0.0	△5.6	△5.6	△88.9	△53.3	△33.3	△33.3	△38.9	△16.7
資金繰り	0.0	△11.1	△11.1	△61.1	△20.0	△38.9	△22.2	△16.7	△16.7
人 手	0.0	5.6	5.6	5.6	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0
設 備	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0	0.0	0.0	5.6	5.6

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	18.9%	提携先を見つける	27.3%
輸入製品との競争の激化	13.5%	販路を広げる	20.5%
地場産業の衰退	13.5%	経費を節減する	13.6%

能登地区の木材業



【概 況】

今期（R 3.4月～6月）業況D.I.は、△33.3と横這いであった。売上・収益・人手・設備は同じく横這い、資金繰りは改善している。「ウッドショック」はやや収まり、競合する輸入材の入荷は増加し、木材価格の高騰が落ちついていない状況から、業況は横這いであるとの回答が多かったとみられる。

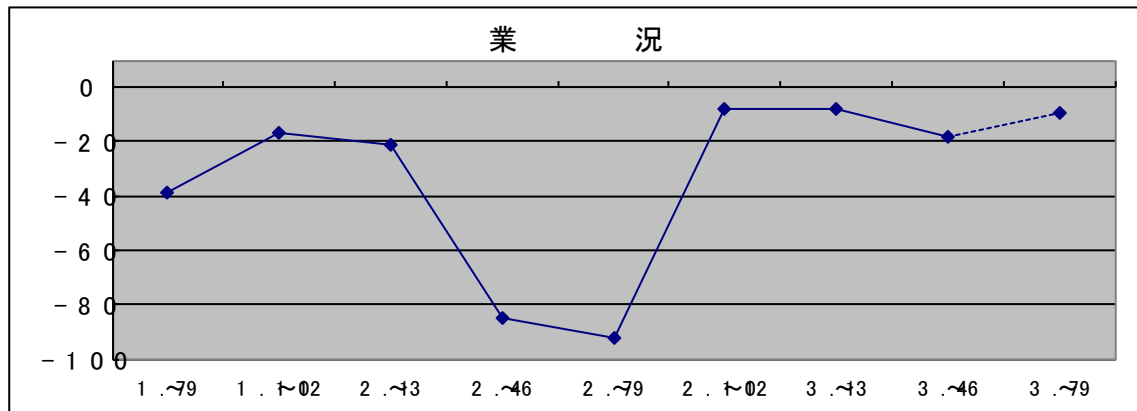
来期は業況をはじめ全ての項目で横這いを予測。現状維持との見方をしている。経営上の問題点として「輸入製品との競争の激化」が「売上の停滞・減少」と並び一位となり、「同業者間の競争の激化」を上回った。前期に比べ、同業者間の競争よりも再び増加した輸入材入荷量を意識している結果となった。

《業績判断D.I.の推移》

	平成31年（令和1年）		令和2年				令和3年		見通し
	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月
業 況	△16.7	△28.6	△33.3	△80.0	△80.0	△40.0	△33.3	△33.3	△33.3
売 上	0.0	△28.6	△33.3	△80.0	△80.0	△40.0	△50.0	△50.0	△50.0
収 益	0.0	△28.6	△33.3	△80.0	△80.0	△40.0	△50.0	△50.0	△50.0
資金繰り	△16.7	△28.6	△16.7	△60.0	△20.0	△40.0	△33.3	△16.7	△16.7
人 手	0.0	△14.3	0.0	△20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
設 備	△16.7	0.0	△16.7	△50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	25.0%	提携先を見つける	38.1%
輸入製品との競争の激化	25.0%	販路を広げる	19.0%
同業者間の競争の激化	6.3%	経費を節減する	19.0%

能登地区の建具業



【概 況】

今期の業況D.I.は、前期比較で△18.2と悪化し、売上・収益の数値も悪化した。経営上の問題点として「人件費の増加」、「利幅の縮小」が挙げられ、「売上の停滞・減少」が続いた。建築シーズンを迎え、例年改善を見せる時期でありながら、コロナウイルス第四波の影響のため動きは弱く、思ったように需要が伸びなかった。第四波が収束の様相を見せているが、今後第五波が発生する恐れもあり、更なる受注減による景気悪化に陥る可能性があるため、状況を注視していかなければならない。

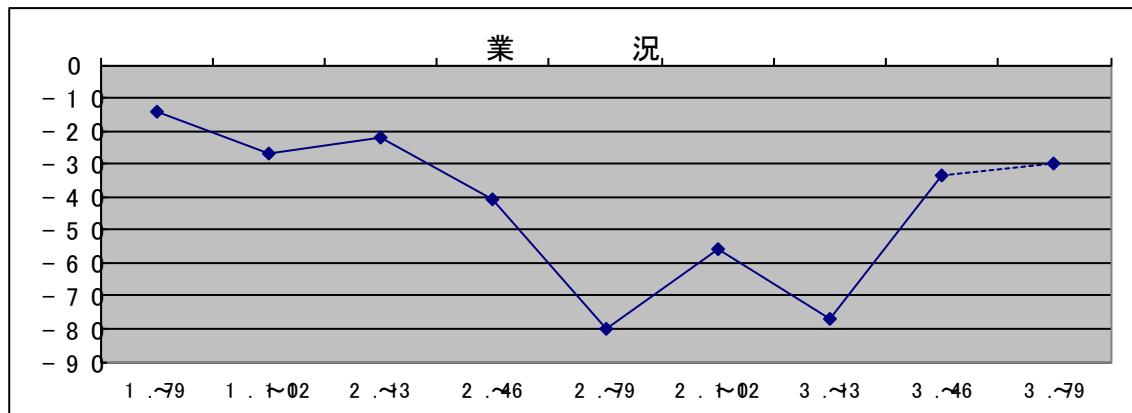
来期（R3.7月～9月）の業況D.I.は△9.1と改善を予想しており、市場は落ち着きを取り戻し売上は改善するとみている。収益は実数反映に時間差があるため、やや悪化すると見ている。

《業績判断D.I.の推移》

	平成31年(令和1年)		令和2年				令和3年		見通し
	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月
業 況	△38.5	△16.7	△21.4	△84.6	△92.3	△7.7	△7.7	△18.2	△9.1
売 上	△38.5	△16.7	△21.4	△84.6	△7.7	0.0	0.0	△9.1	0.0
収 益	△38.5	△16.7	△21.4	△84.6	△7.7	0.0	0.0	△27.3	△36.4
資金繰り	0.0	0.0	0.0	△76.9	△7.7	0.0	0.0	0.0	0.0
人 手	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
設 備	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
人件費の増加	24.4%	提携先を見つける	41.5%
利幅の縮小	22.2%	販路を広げる	22.0%
売上の停滞・減少	17.8%	経費を節減する	22.0%

能登地区の織布業



【概 況】

今期（R 3.4月～6月）業況D.I.は、△33.3（前期△76.9）と改善を示した。売上・収益は大幅に改善、資金繰り・人手は悪化したが、全体的には改善した。ステイホームが続き、アパレルの売れ行きが芳しくない状況が続いている一方で、家庭用の手芸用品の売れ行きが好調となっている。特殊製品については、車のタイミングベルトの裏地は自動車の減産等によって引き続き受注減となっている。

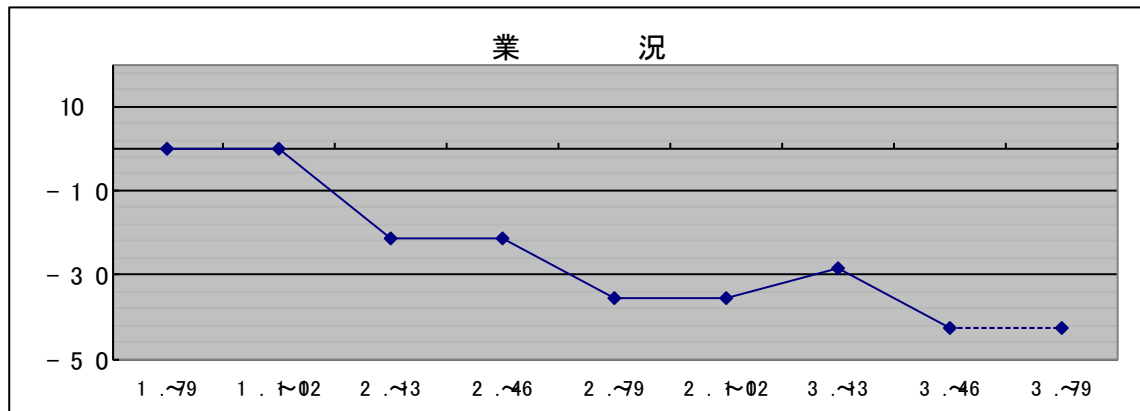
来期（R 3.7月～9月）は売上・収益・資金繰り、業況D.I.も改善するとの見通しをたてているが、改善と悪化を行き来している状況が続いており、今後も動向に注視が必要である。

《業績判断D.I.の推移》

	平成31年（令和1年）		令和2年				令和3年		見通し
	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月
業 況	△14.3	△26.9	△22.2	△40.7	△80.0	△55.6	△76.9	△33.3	△29.6
売 上	△7.1	△19.2	△22.2	△48.1	△64.0	△29.6	△65.4	△29.6	△25.9
収 益	△7.1	△19.2	△18.5	△48.1	△60.0	△29.6	△69.2	△25.9	△22.2
資金繰り	△10.7	△15.4	△11.1	△22.2	△24.0	△14.8	△11.5	△14.8	△11.1
人 手	△17.9	△11.5	△11.1	0.0	0.0	△7.4	7.7	△3.7	0.0
設 備	△7.1	△7.7	△7.4	△7.4	△4.0	3.7	0.0	3.7	3.7

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	23.8%	提携先を見つける	37.3%
人件費の増加	16.3%	販路を広げる	24.0%
輸入製品との競争の激化	13.8%	経費を節減する	14.7%

能登地区の繊維・雑品業



【概 況】

今期（R 3.4月～6月）業況D.I.は、△42.9と前期に業況の横這いを予想していたが悪化を示した。売上と収益は悪化、設備は横這い、資金繰りと人手は改善を示した。今期はマスクゴム紐の需要が落ち着き、アパレル関係の受注は依然厳しい状況が続いている。

経営上の問題点として「大手企業との競争の激化」が挙がっており、大手に押されているとの認識が強まっている。それに伴って当面の重点施策の「提携先を見つける」との回答が15ポイント以上上昇した。

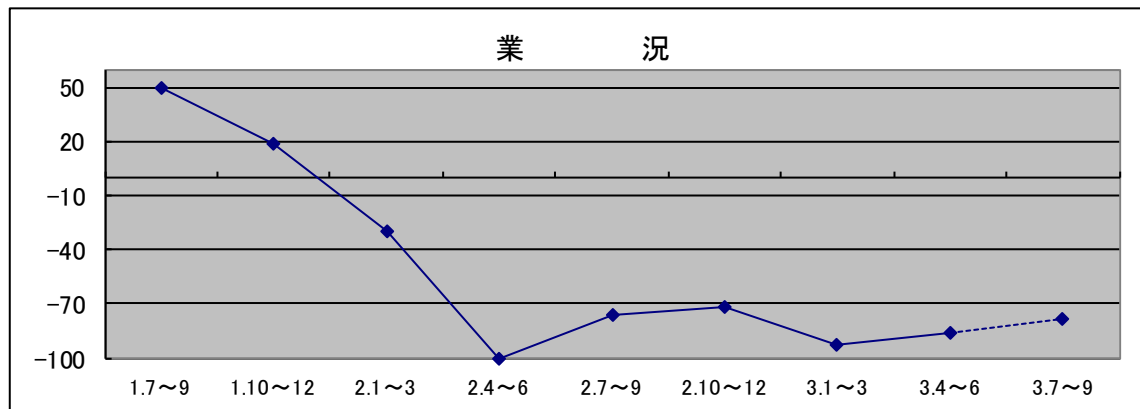
来期（R 3.7月～9月）は業況D.I.を含め、各項目についても全て横這いを予想している。

《業績判断D.I.の推移》

	平成31年（令和1年）		令和2年				令和3年		見通し
	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月
業 況	0.0	0.0	△21.4	△21.4	△35.7	△35.7	△28.6	△42.9	△42.9
売 上	7.7	△7.1	△28.6	△21.4	△21.4	△21.4	△21.4	△42.9	△42.9
収 益	△7.7	0.0	△21.4	△21.4	△21.4	△21.4	△21.4	△42.9	△42.9
資金繰り	△7.7	△7.1	△7.1	△7.1	△14.3	0.0	△14.3	0.0	0.0
人 手	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	△21.4	0.0	0.0
設 備	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	33.3%	提携先を見つける	45.9%
輸入製品との競争の激化	30.0%	販路を広げる	29.7%
大手企業との競争の激化	16.7%	経費を節減する	16.2%

能登地区の観光業



【概 況】

今期（R 3.4月～6月）業況D.I.は前期（R 3.1月～3月）の△92.9から△85.7と改善を示した。国内観光客の動きは改善してきているが、海外観光客の入国制限が続いている。入込客・宿泊客・朝市客を見ても昨年比較では入込客数・宿泊客数が三倍以上、朝市客は八倍以上に改善しているものの、コロナ禍以前と比較すると全ての数値でコロナ禍以前の二割にも達しておらず、依然業況は厳しい。

来期（R 3.7月～9月）予想において、各項目では設備以外は全て改善を予想している。夏休みを迎えるシーズンで人出が増える時期で、各種イベントの開催予定もあり、次期業況D.I.は△78.6と改善を予想している。

《業績判断D.I.の推移》

	平成31年（令和1年）		令和2年				令和3年		見通し
	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月
業 況	50.0	18.8	△29.4	△100.0	△76.5	△71.4	△92.9	△85.7	△78.6
売 上	57.1	△6.2	△35.3	△100.0	△11.8	△57.1	△92.9	△78.6	△35.7
収 益	57.1	△6.2	△35.3	△100.0	△11.8	△57.1	△14.3	△78.6	△35.7
資金繰り	△7.1	0.0	△35.3	△73.3	△29.4	△28.6	0.0	△42.9	△42.9
料金価格	0.0	12.5	5.9	△13.3	5.9	△21.4	0.0	0.0	0.0
設 備	△21.4	△6.2	△11.8	6.7	△5.9	△7.1	△21.4	△7.1	△14.3

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	28.2%	提携先を見つける	23.5%
利幅の縮小	23.1%	宣伝・広告を強化する	17.6%
代金回収の悪化	10.3%	経費を節減する	14.7%

主要経済指標

◆ 労働

(時間)

	有効求人倍率 (季節調整値)	実質労働時間	
			うち所定外
1年 7月	2.00	150.3	9.8
1年 8月	2.03	141.8	9.4
1年 9月	2.00	146.0	10.2
1年 10月	1.92	146.5	10.1
1年 11月	1.89	149.4	10.1
1年 12月	1.89	147.7	9.7
2年 1月	1.73	134.4	8.2
2年 2月	1.70	142.8	9.0
2年 3月	1.59	143.2	9.3
2年 4月	1.46	143.8	8.2
2年 5月	1.32	124.7	5.8
2年 6月	1.19	140.0	6.2
2年 7月	1.15	142.0	7.2
2年 8月	1.10	132.0	7.3
2年 9月	1.09	139.5	7.7
2年 10月	1.12	142.8	7.8
2年 11月	1.18	142.4	8.4
2年 12月	1.23	141.9	8.7
3年 1月	1.22	127.9	7.4
3年 2月	1.26	132.8	8.1
3年 3月	1.27	138.8	8.6
3年 4月	1.35	143.7	8.3

資料: 石川県企画開発部統計課

◆ 消費者物価指数

※平成28年より2015年(平成27年)を100としています。

	総合	前年同月比
1年 7月	102.3	0.3
1年 8月	102.8	0.1
1年 9月	102.7	0.2
1年 10月	103.3	0.4
1年 11月	103.2	0.7
1年 12月	103.1	0.9
2年 1月	103.0	0.9
2年 2月	102.6	0.7
2年 3月	102.7	0.2
2年 4月	102.5	-0.4
2年 5月	102.7	-0.2
2年 6月	102.7	0.3
2年 7月	102.6	0.3
2年 8月	102.6	-0.2
2年 9月	102.2	-0.4
2年 10月	102.6	-0.7
2年 11月	102.2	-1.0
2年 12月	102.0	-1.1
3年 1月	102.6	-0.4
3年 2月	102.5	-0.1
3年 3月	102.8	0.1
3年 4月	102.4	-0.1
3年 5月	102.7	0.0

資料: 石川県企画開発部統計課

◆ 信用保証

(百万円)

	保証承諾		保証債務	
	件数	金額	件数	金額
1年 10月	253	1,899	14,016	104,188
1年 11月	292	3,129	13,873	103,849
1年 12月	321	3,060	13,750	103,852
2年 1月	223	2,433	13,699	103,526
2年 2月	239	2,216	13,597	102,959
2年 3月	456	5,922	13,470	103,826
2年 4月	819	17,705	13,801	112,928
2年 5月	1,308	24,918	14,410	127,514
2年 6月	2,432	39,481	15,797	158,744
2年 7月	3,047	60,623	17,670	197,906
2年 8月	1,697	31,987	19,261	234,113
2年 9月	995	16,859	20,150	254,510
2年 10月	818	11,511	20,735	266,133
2年 11月	735	10,759	21,137	273,184
2年 12月	913	11,887	21,709	282,686
3年 1月	420	4,714	22,087	287,516
3年 2月	638	10,395	22,292	290,467
3年 3月	1,724	33,452	22,781	300,923
3年 4月	820	15,623	23,341	313,128
3年 5月	245	2,328	23,410	314,911

資料: 石川県信用保証協会

◆ 企業倒産件数

(百万円)

	件数	金額
1年 9月	8	417
1年 10月	5	414
1年 11月	5	601
1年 12月	3	30
2年 1月	8	1,916
2年 2月	8	910
2年 3月	4	198
2年 4月	5	471
2年 5月	4	1,635
2年 6月	7	644
2年 7月	10	1,210
2年 8月	3	718
2年 9月	3	89
2年 10月	4	367
2年 11月	6	707
2年 12月	6	413
3年 1月	2	170
3年 2月	4	385
3年 3月	4	3,836
3年 4月	6	509
3年 5月	10	724

資料: (株)東京商工リサーチ

主要経済指標

◆ 建築着工

(千㎡、百万円)

	建築着工総数		うち住宅着工	
	床面積	工事予定額	戸数(戸)	床面積
31年 6月	120	21,572	1,001	86
31年 7月	97	19,022	689	62
31年 8月	113	22,725	612	60
31年 9月	100	15,630	598	57
1年 10月	97	17,816	745	66
1年 11月	141	29,300	740	70
1年 12月	98	27,393	552	50
2年 1月	76	13,352	456	44
2年 2月	75	1,647	399	36
2年 3月	194	3,733	605	59
2年 4月	95	1,869	569	56
2年 5月	96	2,047	456	47
2年 6月	118	2,673	647	58
2年 7月	78	1,514	710	57
2年 8月	109	2,200	728	62
2年 9月	72	1,460	531	45
2年 10月	82	1,529	504	50
2年 11月	96	1,935	672	61
2年 12月	80	16,045	590	54
3年 1月	51	12,277	310	31
3年 2月	163	23,961	465	45
3年 3月	103	24,047	567	55
3年 4月	102	20,202	571	58

資料: 国土交通省(石川県内)

◆ 公共工事請負金額

(件、百万円)

	件数	請負金額
31年 6月	545	14,207
31年 7月	628	19,993
31年 8月	426	10,617
31年 9月	506	15,203
1年 10月	538	15,128
1年 11月	421	8,984
1年 12月	337	6,335
2年 1月	271	6,562
2年 2月	224	7,833
2年 3月	124	3,595
2年 4月	565	45,139
2年 5月	372	20,575
2年 6月	574	17,880
2年 7月	637	17,721
2年 8月	505	11,694
2年 9月	553	14,120
2年 10月	546	12,814
2年 11月	345	6,843
2年 12月	299	7,262
3年 1月	211	5,262
3年 2月	152	3,599
3年 3月	127	7,066
3年 4月	509	37,997
3年 5月	389	22,743

◆ 新車登録台数

(台)

	普通自動車	軽自動車
1年 6月	3,271	1,780
1年 7月	3,505	1,701
1年 8月	2,563	1,601
1年 9月	3,702	2,183
1年 10月	2,037	1,322
1年 11月	2,618	1,401
1年 12月	2,412	1,201
2年 1月	2,199	1,338
2年 2月	3,132	1,818
2年 3月	4,963	2,601
2年 4月	1,657	941
2年 5月	1,611	713
2年 6月	2,244	1,465
2年 7月	2,649	1,690
2年 8月	1,918	1,383
2年 9月	3,048	1,881
2年 10月	2,661	1,581
2年 11月	2,514	1,640
2年 12月	2,339	1,383
3年 1月	2,250	1,326
3年 2月	2,705	1,740
3年 3月	5,105	3,008
3年 4月	2,245	1,506
3年 5月	2,142	1,287

資料: 石川県自動車販売店協会

◆ 温泉地宿泊数

(人)

	和倉温泉	輪島温泉
1年 7月	58,182	14,100
1年 8月	92,608	20,700
1年 9月	65,094	14,600
1年 10月	67,084	15,400
1年 11月	80,191	16,800
1年 12月	67,743	11,200
2年 1月	53,477	8,800
2年 2月	53,368	10,400
2年 3月	33,444	6,600
2年 4月	5,366	1,300
2年 5月	267	2,400
2年 6月	12,897	5,300
2年 7月	46,678	9,800
2年 8月	55,528	13,700
2年 9月	40,084	11,200
2年 10月	52,385	14,300
2年 11月	64,437	16,500
2年 12月	49,849	10,000
3年 1月	10,858	3,600
3年 2月	10,622	4,000
3年 3月	32,937	6,600
3年 4月	23,814	8,300
3年 5月	17,150	7,300

資料: 北陸観光協会、和倉温泉観光協会
輪島市観光協会

◆ 織物生産高

(千㎡)

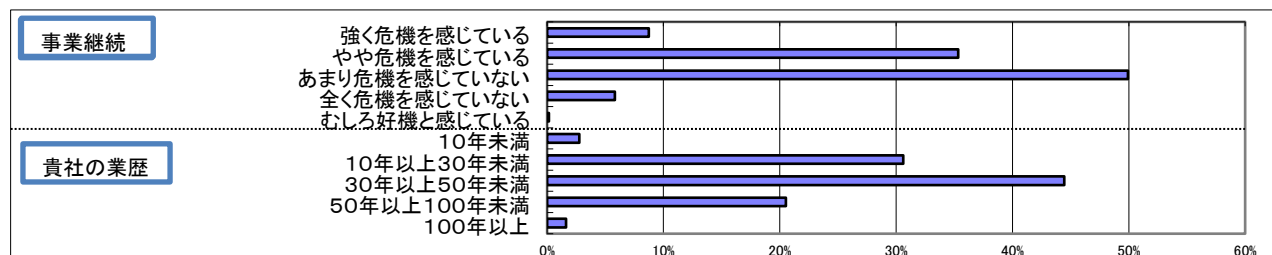
	合計
1年 6月	22,592
1年 7月	23,924
1年 8月	20,338
1年 9月	22,278
1年 10月	24,547
1年 11月	22,574
1年 12月	21,202
2年 1月	19,145
2年 2月	21,066
2年 3月	20,459
2年 4月	19,164
2年 5月	16,954
2年 6月	18,402
2年 7月	17,382
2年 8月	12,208
2年 9月	13,612
2年 10月	15,859
2年 11月	15,282
2年 12月	14,852
3年 1月	15,143
3年 2月	16,191
3年 3月	16,905
3年 4月	17,276

資料: 石川県企画開発

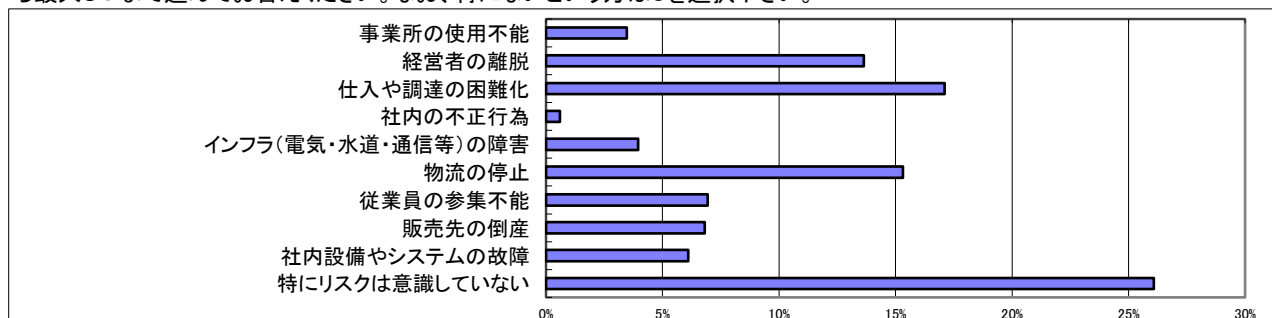
【中小企業の事業継続について】

特別調査

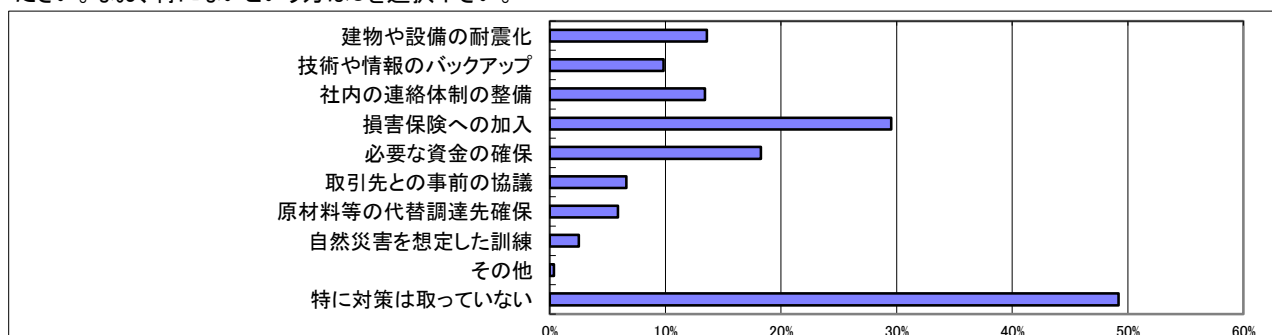
問1. 貴社は、現下の状況を受けて、事業継続についてどう感じていますか。次の1～5の中からお答えください。また、貴社の業歴について、6～0の中からお答えください。



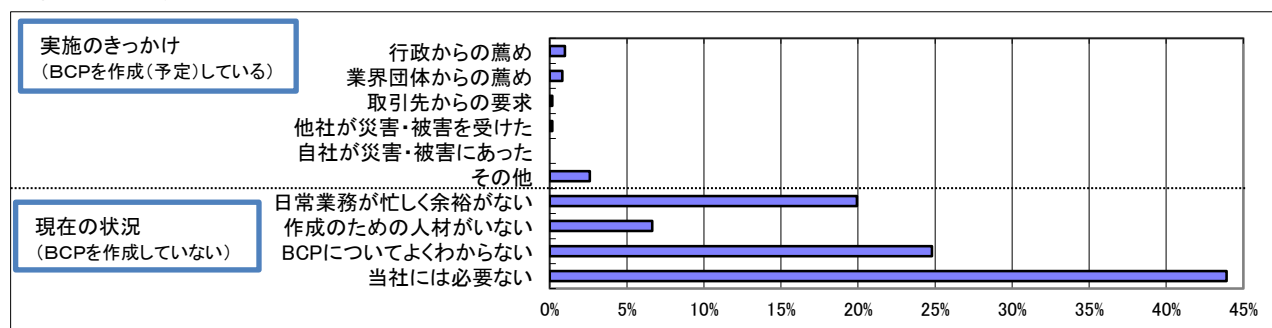
問2. 貴社では、事業継続を困難化させる要因について、どのようなリスクを重視していますか。最も当てはまるものを、1～9の中から最大3つまで選んでお答えください。なお、特にないという方は0を選択下さい。



問3. 貴社では、災害に備え、どのような対策を取っていますか。最も当てはまるものを、1～9の中から最大3つまで選んでお答えください。なお、特にないという方は0を選択下さい。



問4. 感染症や災害などの緊急時における業務の早期復旧のために、「事業継続計画(BCP)」の作成が有効とされています。貴社が事業継続計画(BCP)を作成(予定を含みます)している場合は、そのきっかけについて下記の1～6の中から、また、作成していない場合はスケジュールに影響を及ぼしていますか。最もあてはまるものを、それぞれ1～5、6～0の中から1つずつ選んでお答えください。



問5. 貴社では、事業継続にあたって、常日頃から頼りにしている相談先はありますか。最も当てはまるものを以下の1～9の中から最大3つまでお答えください。なお、特にないという方は0を選択下さい。

